

# 水辺のふるさと かつしか 秋号

2022.6 - 8

自然環境レポーター通信



写真のタイトル：ベルガモット(モナルダ)の蜜を吸うオオスカシバ

撮影場所：鎌倉

写真提供：となり

目次

- 1 55種の動植物調査結果 .....P 2
- 2 自由レポート .....P 3～27
- 3 季節の写真集 .....P 28～34
- 4 魚からの便り .....P 35～38
- 5 環境課からのお知らせ .....P 39～40

担当編集のひとこと

令和4年9月3日に自然環境レポーター委嘱式及び事業説明会を開催しました。令和4年度のレポーターの皆さま、どうぞよろしくお願いいたします。

この夏は区役所の近くでも、ギンヤンマやショウジョウトンボを見かけました。また、環境課では9月に鳴く虫の女王「カンタン」と秋に鳴く虫を聴く会を開催し、カンタンの里周辺にいる鳴く虫の声に耳を傾けました。

だんだんと秋らしい気候になってきたので、これから秋の自然についても観察をしていきたいです。

\*\*\* 佐藤 \*\*\*

# 55種の動植物 調査結果(6月~8月)

## 【調査区3】 計25種

- 〈鳥類〉 ツバメ、オオヨシキリ、シジュウカラ、
- 〈昆虫〉 ギンヤンマ、アキアカネ、オオカマキリ、エンマコオロギ、  
アブラゼミ、ミンミンゼミ、ニイニイゼミ、クロアゲハ、  
ナミアゲハ、ツマグロヒョウモン
- 〈植物〉 アカメガシワ、スギナ、**シロツメクサ**、**イモカタバミ**、  
**アレチウリ**、オオバコ、カントウヨメナ、カントウタンポポ、  
ツユクサ
- 〈爬虫類〉 **ミシシippアカミミガメ**、ニホンカナヘビ
- 〈両生類〉 **ウシガエル**

## 【調査区2】 計12種

- 〈鳥類〉 ツバメ
- 〈昆虫〉 アキアカネ、クマゼミ、  
アブラゼミ、  
ツクツクボウシ、  
ミンミンゼミ、  
ニイニイゼミ、  
クロアゲハ、  
ナミアゲハ、  
**アカボシゴマダラ**
- 〈植物〉 **シロツメクサ**、  
オオバコ

## 【調査区5】 計23種

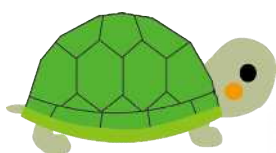
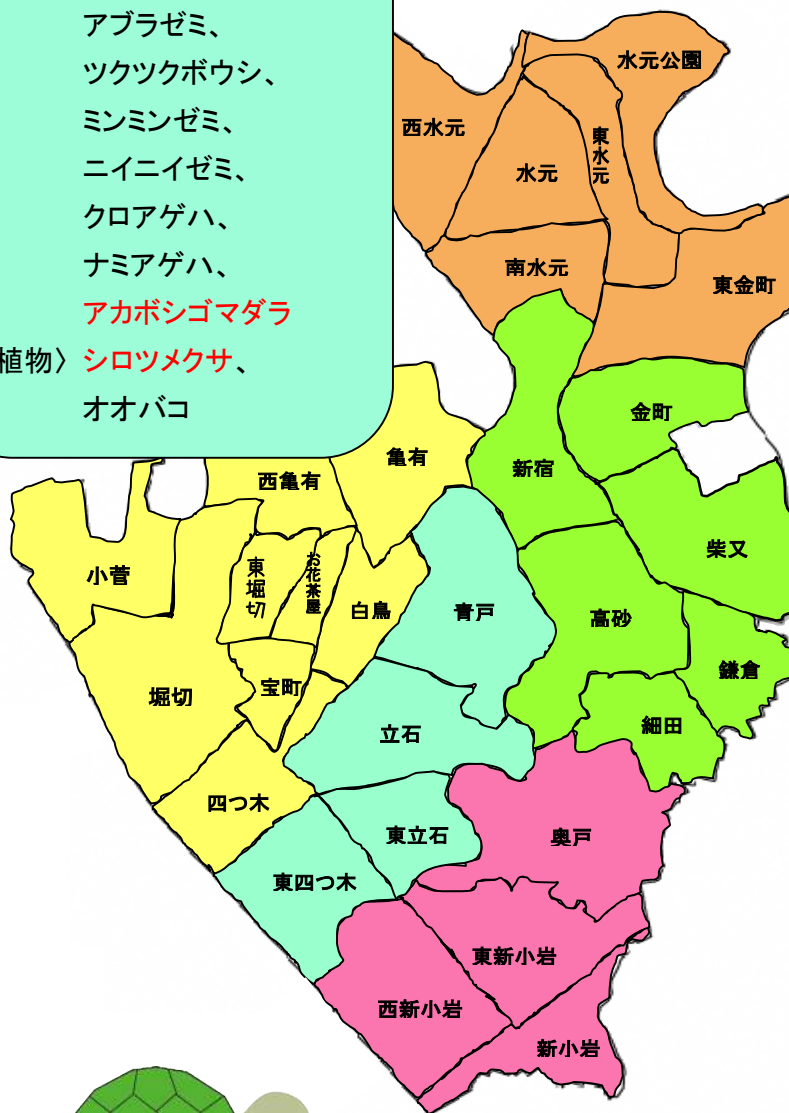
- 〈鳥類〉 ツバメ、オオヨシキリ、コサギ、  
カワセミ、シジュウカラ
- 〈昆虫〉 ギンヤンマ、エンマコオロギ、  
クマゼミ、アブラゼミ、  
ツクツクボウシ、ミンミンゼミ、  
ニイニイゼミ、ヤマトタマムシ、  
ナミアゲハ、  
ツマグロヒョウモン、  
**アカボシゴマダラ**
- 〈植物〉 アカメガシワ、**イモカタバミ**、  
**シロツメクサ**、ツユクサ
- 〈爬虫類〉 **ミシシippアカミミガメ**、  
ニホンカナヘビ
- 〈両生類〉 **ウシガエル**

## 【調査区4】 計16種

- 〈鳥類〉 ツバメ、シジュウカラ
- 〈昆虫〉 アキアカネ、エンマコオロギ、  
アブラゼミ、ツクツクボウシ、  
ミンミンゼミ、ニイニイゼミ、  
クロアゲハ、  
ナミアゲハ、ツマグロヒョウモン
- 〈植物〉 **ナガミヒナゲシ**、**シロツメクサ**、  
**オオキンケイギク**、ツユクサ
- 〈爬虫類〉 ニホンカナヘビ

## 【調査区1】 計10種

- 〈昆虫〉アキアカネ、クマゼミ  
アブラゼミ、ツクツクボウシ  
ミンミンゼミ、ナミアゲハ
- 〈植物〉アカメガシワ、**シロツメクサ**、  
**オオキンケイギク**、ツユクサ



赤字は外来種だよ

## 五色の短冊

## 弥生さくら草

慌ただしかった今年も半年が終わった。世界中がコロナで苦悩し、自然現象は不安定である。日本には物価高を、かの国の人々は絶えることのない苦悩が続いている。七月七日は七夕祭りである。この日は短冊に願い事を認めるのが習いだった。当時は芸事や裁縫が上達すると言われたが今ではそれも多彩になっていると思われる。思いがけない願いもあるだろう。

七夕の歌を子供の頃は何も解らず歌っていたが五色には深い意味があるのをこの度初めて知った。五色とは緑、紅、黄、白、紫をいう。平安時代に紫は特に珍重されていたようである。陰陽五行説では万物が木、金、土、火、水の五種類の元素で構成されるという。七夕の短冊は五行を代表する色なのだ。七夕は今までは牽牛と織姫が年に一度会うという伝説を伝え聴いてきたが更に深い意味があったのだ。

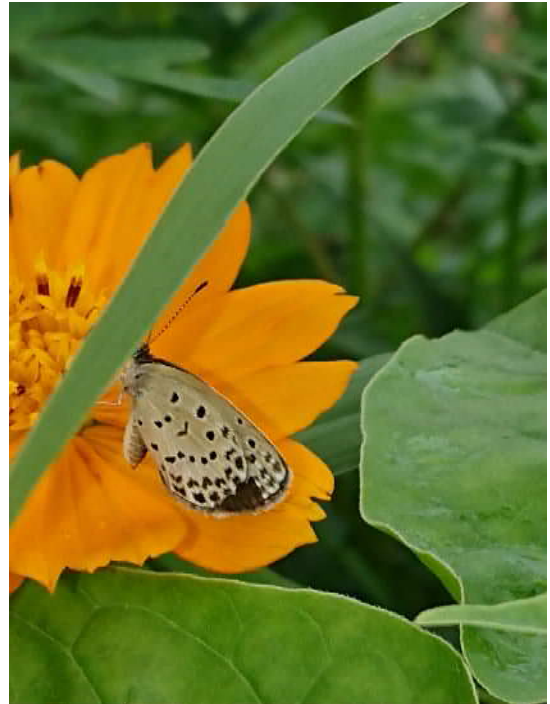
願い事を色紙に記すと叶うそうで、それが真実なら今年一番の願いは、戦火が落ち着き世界中の人々が平和に暮らせること。それに尽きる。強く希望すればするほど叶うという。今年の七夕は例年と違った思いで、その日は空を見上げたいと思う。

7月3日

氏名	散歩の花子	町名	西新小岩	調査区	1-4
----	-------	----	------	-----	-----

キバナコスモス(キク科)とヤマトシジミチョウ

中川左岸緑道、西新小岩5丁目付近。  
7月下旬、もうキバナコスモスが咲いています。  
ヤマトシジミチョウがちょっとひと休み。



アップルミント/(シソ科)

平和橋のたもとで、8月下旬。  
アップルミントの花が、  
四方八方に向かって咲いています。  
葉っぱをちぎると、ミントの香り。

氏名	散歩の花子	町名	東立石	調査区	2-7
----	-------	----	-----	-----	-----

マテバシイ/(ブナ科)



東立石緑地公園付近、6月上旬  
 一本スクッと立っているのは、マテバシイです。  
 雌雄同株ですが、この長い花は、雄花序(ゆうかじょ)だとか。  
 花が咲いて、ドングリになるまで、1年半もかかるそうです。

カシワバアジサイ/(アジサイ科)

東立石緑地公園付近、6月中旬。  
 柏の葉のような形の葉と、  
 びっちり白い花がきれいです。



# 「かつしか環境・緑化フェア2022」で生物多様性を考える

広瀬 温 (調査区2)

6月12日、テクノプラザかつしかで「かつしか環境・緑化フェア2022」が3年ぶりに開催された。

1階奥には「自然環境レポーター」をはじめ「葛飾区生物多様性推進協議会」などのブースが並び、この一角を回れば、2022年現在の葛飾を取り巻く水と緑の環境が概観できる。

「自然環境レポーター」のブースではさまざまな生きものクイズが出題されており、なかなかの難問を前に来場者が興味深そうに取り組んでいる。午前中、案内を担当された環境レポーターさんによると、開館と同時に大勢の区民が訪れ、大盛況だったという。



「綾瀬川クリーンキャンペーン」の日本一汚かった綾瀬川に清流を取り戻す奮闘記録、「水元かわせみの里」の水元小合溜の水質改善計画など、「水辺のふるさと」を取り戻す着実な歩みを再認識し、ちょっと安心する。

「水元ネイチャープロジェクト」では例年通り、ブルーギルやウシガエルなど特定外来種を生体展示するとともに、今年はマスクラット、アライグマの剥製が展示されていた。

剥製とはいえ現物からは、パネルでは伝わらない葛飾を取り巻く自然環境の現実が伝わってくる。中でもカミツキガメにはびっく



り。こんな鋭い爪・歯(口を閉じているので見えないが)で襲われたら、魚も小動物も逃げられまい。「水元公園でカミツキガメが確認されました」と本やネットで目にした場合は「やれやれ大変だ」と頭で反応するが、凶器となる爪・歯を持つ「怪獣」が動く姿を想像すると特定外来種の脅威に鳥肌が立つ。

午後1時から、佐々木洋さんの特別講演会&自然観察会に参加する。テーマは「生物多様性」。生物多様性と聞くと難しく考えがちだが、佐々木さんは「いろんな生物がつながって環境をつくっている」「葛飾にはこんな生きものがいてこんなに楽しい」と考えればいいと話し、セミについての問題が出された。

Q1/鳴くのはオス?メス?それとも両方?

Q2/セミの羽は何枚?

Q3/卵を産みつけるのは、木の葉?幹?土?

Q4/成虫になってからどのくらい生きられる?

Q5/アブラゼミはなぜアブラゼミと呼ばれる?

小学生はもちろん、会場に集まったシニアも脳をフル回転させて考える。

正解は、A1/鳴くのはオスのみ。メスを探す求愛行動で、夏の蝉時雨は「男声合唱団」だと軽妙な洒落も忘れない。A2/羽は多くの昆虫

と同じ4枚。A3/セミの幼虫が地中で長い時間過ごすので土と思いがちだが、幹に産みつけられた卵が孵化して幼虫となり、土に降りて地中で数年間を過ごす。A4/子どもの頃「セミは7年間地中で過ごし、地上に出てからは7日しか生きられない」と習った気がするが、最近の研究ではだいたい3週間、条件がよければ2カ月生きた例もあるという。A5/羽が油で揚げられたような色をしているからではなく、鳴き声が天ぶらなどを油で揚げるときの音に似ているからだという。

セミは日本に30種、葛飾区に6種生息し、種数は樹種の豊かさを示し、生物多様性の指標になる。抽象的な話をボーッと聞くのではなく、投げかけられた身近な問いに自分の経験・知識を総動員して正解を導き出す、アクティブラーニングの連続で飽きさせない。

続いて、葛飾でよく見かける、ツマグロヒョウモン、アオサギ、カワセミなどを例に「外来種」「温暖化」といったキーワードで生物多様性を考えていく。

ツマグロヒョウモンは外来種ではないが、元々は九州～四国～本州南西部に生息していた南方の蝶で、東京で見られるようになったのは1990年代以降だという。移動距離が長く、またスミレの仲間に卵を産みつけるため、都市部でも身近な園芸種のパンジーやビオラを揺籠に生息域を拡大している。



ザリガニや中型の魚を食べるアオサギと、小魚を狙うカワセミの両方が見られるのは、河川環境が変化に富んでいる証拠だと語る。



ミニ観察会のため外に出ると、ポツポツと雨が降り始めた。テクノプラザの石段上の草地に上がると、ヒバリの鳴き声が聞こえる。マンションの屋上からのようで、青戸平和公園で営巣する猛禽類ツミを観察し、生態系を取り戻す調査記録を続けている地元の中学生によると、よく見かけるらしい。東京都絶滅危惧II類のヒバリが営巣しているとすれば、NHK「ダーウィンが来た」で取り上げられてもおかしくないレベルのニュースだという。

ソメイヨシノは葉の付け根に蜜腺があり、蜜を求めるアリを集めて毛虫から樹を守るなど、市街地のわずかな緑を前に興味深い話が続き、目からウロコが何枚もはがれ落ちる。

生物多様性というと「生態系・種・遺伝子の多様性」といった方向で難しく考えがちだが、身近な生きものの関係性から葛飾の自然環境を考える今回の「かつしか環境・緑化フェア」は手の届くヒントに溢れていた。

昨年秋の杉並区和田堀公園での観察会や、江戸川対岸の松戸での環境レポーター研修会などを通じて、葛飾にいない生きもの、失われた景観を見つめ、区民が葛飾の生物多様性を考える機会を増やしていければと思う。



青戸平和公園を中心とした自然観察

氏名：千葉美文 町名：白鳥、青戸 調査区域：2,3

6月

2日 6:30 受け渡し (スズメ) ヒナの頭が少し見える。

3日 6:39 受け渡し (スズメ)

4日 8:47 受け渡し (スズメ) ヒナ3羽確認。9:36 受け渡し (スズメ) 10:53 受け渡し (スズメ)

7日 メスがムクドリを捕る。天日干しをする。

10日 メスがムクドリを捕る。

11日 6:50 受け渡し (スズメ)

12日 ヒナの腹の羽が生え変わる。9:06 受け渡し (スズメ) 10:01 受け渡し (スズメ)

11:03 受け渡し (スズメ)

14日 ツミメス電線に止まる。

17日 ヒナが枝渡りを始める。

18日 ヒナ5羽目を確認。ヒナは全部で5羽いることが分かった。

19日 7:59 受け渡し (スズメ)

21日 ヒナ巣立ち

25日 オスがよく飛ぶ

26日 オスが痩せて見える。(子育て疲れ?) 10:01 頃受け渡し (スズメ) 10:04 も 11:29 も同じ。上千葉砂原公園でツミを発見。繁殖していて、ヒナは3羽いた。メス親が地面に降りてゴーカートが来ても上に上がらないのでかなり人なれしている個体だと思われる。

27日 6:46 受け渡し (スズメ)

30日 上千葉砂原公園でメス親が電線で監視している。

7月

1日 6:59 受け渡し (スズメ)

2日 上千葉砂原公園はなぜか親がメスしか見られない。

7日 団地にて、ここでは青戸平和公園とは別の夫婦が子育てしていて、3羽巣立った。そのうち1羽が落下。バイクの上などに止まったりしてさまよっていた。

20日 上千葉砂原公園のツミのヒナが6:46 にセミを捕まえる。直後にもう1羽がセミを捕まえていた。セミ捕りが上手いようだ。

その後ツミがいなくなる。毎年9月には戻ってくる。

8月

8月は特に目立った鳥情報はない。しかし昆虫情報はいっぱいある。私は青戸平和公園で、アゲハチョウ、クロアゲハ、アオスジアゲハ、アカボシゴマダラ、ルリタテハ、シジミチョウ、カブトムシ、カナブン、シロテンハナムグリ、アシナガバチ、スズメバチ (おそらくオオスズメバチ)、

などなどたくさんの昆虫をみつけた。

8月29日 曇り 青戸平和公園にてサンコウチョウ初確認。ムシクイ類もいた。



上千葉砂原公園のツミの母親



上千葉砂原公園のツミのヒナ



青戸平和公園のツミのヒナ



青戸平和公園に来たルリタテハ



巣から落ちてバイクに登った団地のツミのヒナ



青戸平和公園に来たサンコウチョウ



おまけ 飼っている猫の水皿に浮いていたカネタタキ (生きていたので外に放しました。)

氏名：藤並 剛

町名：亀有

調査区：3

SDGs の目標 8 には、「すべての人々にとって、持続的でだれでも排除しない持続可能な経済成長、完全かつ生産的な雇用、働きがいのある人間らしい仕事を促進する」もので、そのアイコンは、『働きがいも経済成長も』である。

今の時代、両者を追及することは、困難を伴うものである。物価高や低賃金の中、生活重視の経済追求を求めざるをえないからだ。しかし、本来、仕事とは、自分のやりたいことを求め、その結果得られる報酬で生活するものである。子どもの頃、プロ・スポーツ選手になりたいとか、保育園の先生になりたいという夢をもっていたと思う。しかし、情報化し、市場化した社会において、現実を思うあまり、生きがいや働きがいを捨てて、手近な情報をもとに就職を決める若者が増えたのは、残念である。そして、新型コロナウイルスが蔓延する中、外出が制限された。仕事はテレワークとなり、家庭での親子の関係が課題となった。思想家の佐伯啓思氏は、『さらば欲望』\*1 という著書の中で、「人類は長い間、生存のために四つの課題と闘ってきた。飢餓、戦争、自然災害、病原体である。飢餓との闘いが経済成長を生み、戦争との闘いが自由民主主義の政治を生み、自然との闘いが科学技術を生み、病原体との闘いが医学や病理学を生んだ。すべて、人間の生を磐石なものとするためである。そしてそれが文明を生み出した。だが、この極北にある現代文明は、決してそれらを克服できない。とりわけ、巨大地震や地球環境の異変は自然の脅威を改めて知らしめ、今回のパンデミックは病原体の脅威を明るみに出した。文明の皮膜がいかに薄弱なものかを改めて示したものである。一見、自由や豊かさを見事なまでに実現したかに見える現代文明のなかで、われわれの生がいかに死と隣り合わせであり、いかに脆いものかをわれわれは改めて知った。カミュの『ペスト』がよく読まれている」と述べている。

最近、学びを実行し継続するための仲間づくりとして、「読書会」が流行っている。住宅リフォーム会社を経営する山本多津也氏は『読書会入門』\*2 という著書の中で、「ただ本を読むことすらままならないのだから、たしかにあのコンサルタントの言うとおりに、本を読んで得た知識を実行に移し、さらに継続するというのは、かなり難易度の高い作業でしょう。だからこそ同じ目的を持つ何人かで、ゆるい相互監視の状況を作ってしまうと、継続だってより簡単にできるようになるはずです。つまり、まずは本を最後まで読み、本から学んだことを継続して生かすための仲間を作ろう。この二つを満たすものを考えた結果、自然と見えてきた形こそが、ほかでもない《読書会》だった」と述べている。

過去にも、吉田松陰の「松下村塾」や緒方洪庵の「適塾」がある。それは、塾生が全員で本を読み、議論を交わすことであった。現代で言えば、「読書会」

だ。その私塾出身には、幕末から明治にかけて活躍した高杉晋作や伊藤博文、福澤諭吉などの人物がいたことを歴史が証明している。本を用いた議論は、人を成長させる。先ほどの山本氏も、「ですから私は、自分が古いタイプの間人だと自覚しつつも、コミュニケーションの基本はやっぱり、顔と顔を突合せたリアルな場にあると思っています。そしてネットを介した文字のコミュニケーションは、あくまでもそのようにリアルな関係の、補強のために使うべきだと考えているんです」と話す。山本氏が主宰している「猫町倶楽部」という読書会の「唯一の参加条件は、課題本を読了するということです。課題本には毎回、読了のハードルがやや高い本を（山本氏が）選んでいます。逆に言えば、高いハードルを越えて読了さえしているのなら、誰だって読書会に参加する資格がある」というゆるいネットワークだ。普通の人々は、職場や家庭生活において、「自分の好きなものを好きと言えず、本当の自分をひた隠しにして日常を過ごしている限り、どんなに他人に褒められたり、評価されたりしたとしても、心から満たされ、自己評価を高めることはできないでしょう。そんな社会の中にあって、せめて猫町倶楽部のコミュニティは、誰もが偽らない自分を開示し、認められ、受け入れられる場所でありたい。いつだってそれが可能な場所として門戸を開けておきたいと思っています。ほかで居場所を見つけれなかった人が、猫町倶楽部を自分唯一の心安らぐ居場所だ」という。しかし、そこで終わるのではなく、「猫町倶楽部に参加しながら、少しずつ本当の自分を受け入れられるようになった人は、同時にほかにも、たくさんの足場を持ってほしいのです。たった一箇所が自分のすべて、という状態にいるより、会社や学校、サークルや習い事など、自分の居場所を分散させることで、より健やかな自分を作ることができます」と山本氏は言う。すなわち、「読書の目的の一つは、読書を通じて自分自身の可能性に気付くことです。一度居心地の良い場所を見つけたのであれば、今度はぜひ外に目を向けてほしいんです。書を持って、もっともっと広い世界を目指してほしいんです。自分の可能性を狭めているのは、自分自身なのですから」と、山本氏は述べている。

《時代が変わる時、読書会が偉人を輩出する》と言い、「読書会は、繁栄する国づくりの原動力」と訴える方がいる。その方は、経営・マーケティングコンサルタントの神田昌典氏である。著書『未来実現マーケティング』\*3の中で、「そして今もまた一時代は、今までの経験だけでは誰も答えを見出せない、第4次産業革命に突入した。多くの方は、相次ぐ自然災害や新型コロナウイルスの感染拡大に見舞われたのをきっかけに、これから、どう生きていったらいいのか悩んでいる。そんな先行き不安の中で生きるからこそ、お勧めしたいのが、読書会だ。なぜなら、それは働きがいを見出しながら、同時に経済成長を牽引するスキルを身につけられる。万能かつ安価な方法だからだ。まさに『働きが

いも経済成長も』というSDGs8番の目標を実現する基盤となる活動であると思う」と述べている。神田氏は、「私が読書会ネットワーク《リードフォーアクション》を始めた当初は、本が売れなくなると盛んにいわれていた時代で、『誰が読書会など行くもんか』という雰囲気だった。後から知ったのだが、当時、同じように読書会に取り組んでいたのは、名古屋市で住宅リフォーム業を営む山本多津也さんが先行してスタートしていた《猫町倶楽部》ぐらい。リードフォーアクションは、独自性を出すために、『読まなくても参加できる読書会』というコンセプトを考案した。当初は、自分たちですら『そんなことできるの!』と不安だったが、それまでNLP（神経言語プログラミング）や加速学習、コーチングといった分野で事業経験を蓄積していたので、『本を読まない人でも楽しめる読書』を目標に開発に挑戦した」という。「読書会を開催するのは私たちだけでなく、《アクティブ・ブック・ダイアログ（ABD）》や、編集工学研究所による《探求型読書》という手法による読書会も現れ始めている。また先にご紹介した《猫町倶楽部》は、日本の読書文化を支える活動を続けており、今も大きく発展している。こうした読書会の盛り上がりは、幕末に広がった私塾や寺子屋の再来を彷彿させる。どこも素晴らしい読書会を展開されているので、いろいろ試して、自分に合う方法を見つけていただきたい」と述べている。

私事ですみませんが、私も、かつての教え子の大学生と読書会の《藤浦会》を立ち上げた。これから、社会人も含めた読書会に発展させたいと思う。これが、今回のSDGsの提案である。（2022年8月11日）

#### 《参考・引用文献》

\*1『さらば、欲望～資本主義の隘路をどう脱出するか』佐伯啓思、幻冬舎新書、2022年発刊。

グローバリズムの矛盾が露呈し、新型コロナに襲われ、ついにはプーチンによる戦争が始まった。一体何が、この悪夢のような世界を生み出したのか—自由、人権、民主主義という「普遍的価値」を掲げた近代社会は、人間の無限の欲望を肯定する。欲望を原動力とする資本主義はグローバリズムとなり、国益をめぐる国家間の激しい競争に行き着いた。むき出しの「力」の前で、近代的価値はあまりに無力だ。隘路を脱するには、われわれの欲望のあり方を問い直すしかない。稀代の思想家による絶望と再生の現代文明論。

\*2『読書会入門～人が本で交わる場所』山本多津也、幻冬舎新書、2019年発刊。

本の感想を複数人で語り合う「読書会」は、一人でする読書よりも格段にメリットが多い。誰かの意外な感想が、自分にはない視点を与えてくれ、理解できなかった箇所は、他の参加者が補ってくれる。課題本は、ビジネス書、小説、哲学書、なんでもいい。感想を自分の言葉で表現する行為は、新しい自分の発見へもつながる。参加の仕方、会の開き方からトラブル対処法まで、日本最大規模の読書会主宰者がその醍醐味を伝授。

\*3『未来実現マーケティング～人生と社会の変革を加速する35の技術』神田昌典、PHPビジネス新書、2022年発刊。

この国に足りないのはただ一つ、マーケティングだ。SDGs17を一つひとつ取り上げながら、仕事と人生を、そして社会を変革するための「35のツール」を紹介する。著者の未来論&ビジネス論の集大成となる斬新な一冊。

氏名：石鍋 壽一	町名：小菅	調査区：3
----------	-------	-------

2022年6月18日

## チヂミザサ



区内北西部 令和4年6月18日

チヂミザサです。

区内でも何故か古い住宅街に生えています。

水元公園でも見ました。

水元公園では一般的に森林の日陰に生えています。

このチヂミザサとミズヒキは、古い住宅街に生えていることと、水元公園の森林の日陰の同じようなところに生えているところが一緒です。

氏名：石鍋 壽一	町名：小菅	調査区：3
----------	-------	-------

2022年7月2日

## シオカラトンボ



2022年7月2日 区北西部

シオカラトンボ（オス）。

オスしか見かけませんでした。

獲物を探して一定範囲を繰り返し飛んでいました。

暑すぎて、ミシシippアカミミガメは水上に出ていませんでした。

この頃、ギンヤンマはみかけていません。

追記：8月12日にギンヤンマのオスを見かけました。大体、2年に1回、1匹のペースで見かける程度です。

氏名：石鍋 壽一	町名：小菅	調査区：3
----------	-------	-------

2022年8月12日

## ツユクサ



ツユクサ（花）

区内北西部 令和4年8月6日

道端から見た竹垣に生えたツユクサです。

手前のツタはヤブガラシ。

夏の暑い日の道で、青い花が涼しく感じさせてくれました。

今年の夏は、COVID-19 も流行し、熱中症注意報も出る日が多く、あまり観察できませんでしたが、その中でも身近で美しい花として取り上げました。





キジバト (たぶんメスとオス) 2022年8月6日 10:14



落ちて割れた卵 2022年8月21日



枝を持ってきた 2022年8月6日 10:14

よくその辺で見かけたり声を聞くが、7月頃から特によく来るようになり、柿の木周辺でじっとして鳴いている事が多くなった。夜中、何かに襲われたのかバサバサ暴れるような、慌てて逃げるような音が聞こえた。8月、柿の木の横のナンテンで営巣。地上2mくらいのところ。

人間がこんなに近くにいるのに嫌ではないのかな。こっちが気を遣って行動しにくい。8月21日、道路側に卵が1個落ちていた。8月30日、ひな鳥の声が聞こえたので遠くから少し見たらひな鳥がいた。数日後、親鳥が帰ってこなくなった。

去年は梅の木に営巣しようとしていたが気に入らなかったのかやめたみたい。今年はいまうまくいったかと思ったが、ダメだったのかな。



←電が凄かったですね。  
親指くらい、直径1.5～2cm弱  
2022年6月3日 16:11

参考資料：『イモムシハンドブック 2』文一総合出版、『ネイチャーガイド 増補改訂版 日本のクモ』文一総合出版、『昆虫エクスペローラ』インターネット



ササグモだと思っていたのですが、コウライササグモというそっくりさんもあるらしく、わからない。(左がメス、右がオス)



ユカタヤマシログモ、トイレにいた。初めて見た。



クモ? 1mm くらいの大きさ



アズチグモとセンニチコウ



ペンタスの葉の裏に何かいる。幼虫? 蛹?



モモズメの幼虫

【過去編】

《トモンハナバチ》初めて見たかわいいハチ。左の写真 2021年7月21日 15:45、ベルガモット（モナルダ）に止まっている。右の写真 2021年7月16日 17:41、ミズヒキに止まりじっとしている。たぶん今日の寝床。

《ヒキガエル》2015年10月22日、だいたい毎年いたような気がする。2015年以降見ていない。



《へびの抜け殻》2016年11月5日

2006年か2007年に太いミミズのようなへびを見た。模様もなくスベスベしていそうな印象だった。ヒバカリだったのかな？今は抜け殻も見なくなった。

調査区：5 T・K

8月17日夏季休暇最終日。一人でごんぼち池、オニバス池、水辺のさとをゆっくり散策。

小さく黄色い花アサザ、異国を感じさせるオニバスの花、ピンクの大輪ハス。これらを一度に観賞できた贅沢な時間。心身ともにリフレッシュ出来た日でした。20220907



**キバラヘリカメムシ：**  
マユミに30~40匹いた。数匹捕まえて匂いを嗅ぐと青リンゴやオキシドールのような匂いがした。  
20220724 水元公園ハス池横



**ヤマトタマムシ：**  
数年振りに水元公園を見た。それも今夏4回。さらに写真も撮れたことがとても嬉しい。相変わらず美しい色とフォルム。幾つになっても出会いの興奮は変わらない。  
20220809 水元公園オニバス池他



**クワカミキリ：**  
数匹のクワカミキリが割りほし程度の太さの枝にとまり樹皮をきれいに食べていた。  
近くにいたカメラマンが17~18匹はいると話していた。地味な色だけど大型で個人的には好きなカミキリムシ。害虫というのが残念。  
20220710 水元公園 水辺のさと



**カルガモの親子：**  
あまりの可愛さに15分程ずっと見ていた。とても癒されました。  
20220709 水元公園オニバス池横

**アスマヒキガエルの子供：**  
やせ細っていたので2日間虫を与え元の場所に戻した。  
20220702 ごんぼち池近く

# 自然観察レポート R4/6～8月

調査区 5

佐々木 定治

## 初夏にみられる植物たち



① 水辺の植物観察



② イヌビエの木とクワカミキリ



③ これがショウブの花



④ ハンゲショウ

6月25日(土)に、「初夏にみられる植物たち」というテーマのもと、自然観察レポーター研修会に参加しました。都立水元公園は、都民の憩いの場所であり、特に葛飾区民にとっては自然観察の絶好のエリアです。森林の緑・水辺。そこに住む多くの「生きもの」が豊かに息づいています。

当日は、NPO 法人ネイチャープロジェクトの中島幸一講師の、分かりやすい解説にとくと耳を傾けながら観察に熱中しました。

研修会のポイントは、①足元の植物を観察してみよう。②似たような植物の見わけかた ③何の仲間か分類を調べてみる。④毒のある植物と薬になる植物 ⑤植物から見る生物多様性 植物～昆虫～鳥の繋がり ⑥水辺に多い樹木、その物語を探る。⑦映画や歌に唄われた植物、それはどんな植物?・・・植物をはじめとした全ての生き物を暮らしの中に引き入れ、自分と生き物との関わりの中で、ストーリー性を持たせていく観察もできると確信し、これからもその視点での自然観察をして行こうと自分なりの決意をしました。

# 夏の息づかいがここにあり



④ 7/15 アカボシゴマダラ



水元3丁目 ⑤ツマグロヒョウモン



⑥ アカトウガラシ



⑦キアゲハの幼虫



⑧8/25 タイワンホトトギス

今年の夏の暑さも格別でした。関東の梅雨明けは当初 6月6日と言われていましたが、実は7月下旬の7月26日だったと9月1日に気象庁が修正しました。私は体感的にもこの夏の湿度の高さに、辟易でした。

最近「気象病」等と言われる病気も明らかにされ、今後は気候変動に伴う、人間の健康障害も増えるのではないかと感じます。

そんな中でも、季節を謳歌するように、調査区5の水元では生き物たちが、逞しくそして生き活きと、息づいています。④雨上がりの植物の葉の上で見つけた「アカボシゴマダラ」⑤アガパンサスの葉の上の「ツマグロヒョウモン」⑥真っ赤な色が鮮やかなアカトウガラシ……。実に美しき生きものたちよ！ようこそ此処は水元3丁目！

## 葛飾区自然環境レポーター 自由レポート（2022年6～8月）

氏名：江戸川の小鮎	調査区：主に 5-24、5-26	町名：東金町
-----------	------------------	--------

### 6月8日（水） 東金町3丁目商店街

前回のレポートでもお伝えしましたが、東金町3丁目商店街のコンビニの軒先で子育てしていたツバメは、どうやら無事にヒナ5羽が巣立ったようです。近くの電線に親子でいる様子が確認できました。

コンビニの前を通りかかった親子がいましたが、3歳くらいの子どもが「ツバメの赤ちゃんをおうちに持って帰りたい」と両親に話している場面がありましたが、お父さんが「おうちに持って帰っちゃうとツバメのお母さんが悲しむよね」と優しく伝え、子どもも納得した表情を見せていました。何とも言えない微笑ましいシーンでしたが、ツバメの子育ての様子は通り掛かる人々を温かな気持ちにされてくれたような気がします。ヒナ達にはこれから様々な試練が待ち構えています。何とか乗り越えて、無事に成長してほしいものです。



写真① 東金町3丁目 コンビニ軒先の巣

### 6月11日（土） 東金町1丁目 駐輪施設

同じ東金町3丁目では、昨年確認できた他の3カ所では残念ながら今年は繁殖が行われていませんでした。

これまでより少しばかり調査範囲を広げたところ、JR金町駅から100mくらいのところにある東金町1丁目の駐輪施設の屋内に営巣していることを確認しました。

駐輪施設のオーナーに話を伺ったところ、「数年前から巣を作るようになった。毎年ヒナがかえって、元気に巣立っていた。夜は23時には駐輪施設の入口のシャッターを閉めてしまい、翌朝6時にシャッターを開けると親鳥が



写真② 東金町1丁目 駐輪施設内の巣

再び餌を採りに外に出ていく」と気さくに答えてくれました。許可を得て巣の写真を撮らせていただきましたが、ヒナは計4羽いて、オーナーと話している間も親鳥が頻繁にヒナに餌を運んでいました（写真②）。オーナーにツバメが減少していることや、ツバメが巣を作った家には福が来ると言われていることを伝えると、「そうですか…」と話されていた。ツバメの巣のすぐそばには常に駐輪施設のオーナーが座っているので、ツバメも外敵から襲われる心配もなく安心して子育てができていた様子でした。

残念ながらこの地域ではこれ以上ツバメの営巣・繁殖を確認することはできませんでしたが、来年も引き続き同じ地域でツバメの繁殖の追跡調査を行っていきたいと思います。また、来年は巣があった場所のオーナーには、引き続きツバメの繁殖を見守ってもらえるようメッセージをしっかりと伝えていくことも大事であると思いました。



氏名	K・N	町名	東金町	調査区	5
(水元公園正面入口～養魚場入口間の指定種の植物と昆虫)					
鳥類は大橋周囲～小合溜					
種類	植物・蝶々・野鳥 (令和4年6月・7月・8月)				

種類	6月	7月	8月	種類	6月	7月	8月
西洋タンポポ	2	1	0	アゲハチョウ	2	2	2
つゆ草	0	10	多数	モンシロチョウ	3	2	2
シロツメ	0	多数	多数	アオサギ	1	1	0
シジミチョウ	5	5	4	コサギ	1	0	0
クロアゲハ	0	2	1				

**野鳥情報** 今年のはつばめは巣立ちが早く5月～7月だった

駐車場	雛3羽 6月中旬 2箇所目雛3羽 7月初旬
-----	-----------------------

ひなの合計 16羽、昨年と同数。東金町4丁目の空家戸袋にも巣あり雛数は未確認

### 昆虫情報

①水元公園の桜土手の歩道脇でクモの巣を撮影した。近くにクモはいないかと観察。白い花に発見したクモは頭がミドリというカラフルな色合いだった。(7月撮影)



② セミが路地の道端にひっくり返っている(8月)

東金町4丁目から金町駅やスーパーに行く途中の道路を歩いた時「セミがひっくり返っている」それも多いたときは2匹～3匹だ。うち3割はすでに動かない。見つけると雑草や庭木にそっと置く。水元公園内では8月になって鳴き声が激しくなった。猛暑の影響か、バッタなどの昆虫もみかけるが少ない。

珍らしくはないが、地面に多数の穴と数年ぶりに出てきた幼虫のぬけがら(近所の公園)



やっとセミになったが、飛べずに何故、道路にひっくり返ってしまうのか？

- ③ この公園の地面に珍しいものを見つけた  
黒い部分に触ろうとしたら、小さなアリが数匹動いた  
巣だろうか？形が格好いいので撮影



**植物情報 (季節外れの雹降り)**

6月初旬、突然激しい雨音がした。外を見ると白い丸いものが落下してきた。手に当たると痛い、夏に雹？その激しさに雨戸を閉めた。  
野菜の葉が切り裂かれている。7月中旬、葉先の一部は枯れているが「トウモロコシ」はなんとか実をつけて成長している。近所の90歳の奥さんは「初めての体験よ」という。  
西水元の友人達は「降っていない」という。



## 調査区 5

ゆきひめ

7/16(土) 鉢植えのパセリの種がこぼれ、庭のあちこちから芽が出ています。  
いくつかの株に、キアゲハの幼虫がたくさん生まれていました。  
その後、パセリは茎だけになり、幼虫は姿を消しました。  
周辺を探しましたがサナギは見つからず…無事に飛び立ったことを祈ります。



## 調査区 2

7/8(金) 職場では、環境課からいただいたゴーヤーで「緑のカーテン」を作っています。  
周辺でチョウを見かけることはあまりないのですが、クロアゲハがやって来て  
花から花へと蜜を吸っていました。



## 調査区 2

「フェンスにハチの巣がある！」と話題になっていました。  
静かに見守ることに・・・まだまだ大きくなりそうです。



# 季節の写真集 (6月～8月)



「コフキトンボ (オビ型)」  
6/4 水元公園 (水産試験場)  
名前: 下山田 隆

「ネジバナとチガヤ」  
6/18 区北西部  
名前: 石鍋 寿一

「カルガモ」  
6/3 曳舟側親水公園  
名前: R

「スケルトン蛹」  
6/19 お花茶屋  
名前: R y u



# 季節の写真集 (6月~8月)



「クロアゲハ」  
6/20 お花茶屋  
名前：Ryu

「絶対につかまえてやる！」  
6/30 水元  
名前：ゆきひめ



「俺の靴で休憩」  
ウスバキトンボ  
6/30 柴又  
名前：瑛ちゃん

「園芸品種で野生化している  
らしいです」  
ヒメヒオウギズイセン  
7/2 区北西部  
名前：石鍋 寿一



# 季節の写真集（6月～8月）



「ベルガモット（モナルダ）の  
蜜を吸うオオスカシバ」  
オオスカシバと  
ベルガモット（モナルダ）  
7/4 鎌倉  
名前：となり

「うしろから  
見られているよ」

ツミ

7/1 青戸平和公園

名前：千葉 美文



「オオイトトンボ」  
7/10 水元公園  
名前：下山田 隆

# 季節の写真集 (6月~8月)



「キアゲハとハチ」  
7/24 鎌倉  
名前：となり



「今夏初！」  
セミのぬけがら  
7/15  
名前：瑛ちゃん

「カサブランカ」  
7/10 お花茶屋  
名前：Ryu

「キアゲハの幼虫」  
7/15 水元3丁目  
名前：佐々木 定治





# 季節の写真集（6月～8月）



「ハイビスカス」  
7/25 お花茶屋  
名前：R

「緑化の副産物」  
8/1 お花茶屋  
名前：R

「ハクビシン、西亀有の  
上千葉砂原公園の鉄塔」  
7/29  
名前：有泉 桂子

「触覚がピンクのバッタを三才になったばかり  
の女の子がみつけました」  
7/20  
名前：有泉 桂子



# 季節の写真集 (6月~8月)



「カントウヨメナ」  
8/6 区北西部  
名前：石鍋 寿一



「キムネクマバチ」  
8/7 常盤中学校(花壇)  
名前：瑛ちゃん

「アブラゼミ」  
8/5 柴又  
名前：瑛ちゃん

「朝の香取神社」  
8/10 亀有  
名前：慶蔵



# 季節の写真集 (6月~8月)

「カナヘビ」  
8/17 鎌倉  
名前：となり



8/15 青戸  
名前：慶蔵

「朝青夕紫」  
8/30 お花茶屋  
名前：R y u



「ギンヤンマ♂」  
8/27 水元公園  
名前：下山田 隆

葛飾柴又新八水路 魚からの便り-299

調査回数 調査日 地点	301			備 考	
	2022/6/11				
	本流	新八水路	新八ワンド		
1	ア シ シ ロ ハ ゼ	33 40-65			
2	ア ユ	2 65-66			
3	オ イ カ ワ	13 53-88			
4	カ ダ ヤ シ		1 38		特定外来生物
5	ギ ン ブ ナ			1 43	
6	コ ク チ バ ス	1 175			特定外来生物
7	ゴ ク ラ ク ハ ゼ	3 52-70			
8	ス ズ キ	2 68-85			
9	ス ミ ウ キ ゴ リ		19 31-44	3 32-40	
10	ツ チ フ キ	1 41			
11	デ メ モ ロ コ	10 57-85			
12	ニ ゴ イ	1 28			
13	ヌ マ チ チ ブ	39 30-78			
14	ヒ ナ ハ ゼ	1 18			
15	ボ ラ	16 38-395			
16	マ ハ ゼ	40 31-143			
17	モ ツ ゴ			1 27	
計		13種類162個体	2種類20個体	3種類5個体	

- ・ 上段の数字は個体数、下段の数字は全長の最小-最大範囲（単位：mm）
- ・ 江戸川本流、新八水路、新八ワンドあわせて17種類187個体の魚類が採集されました。
- ・ 曇り、気温24.6℃、水温 本流20.3℃、新八水路20.3℃、新八ワンド24.8℃（14:30頃測定）  
「参考」江戸川の水位（観測所：千葉県市川市市川 市川根本排水機場江戸川側）  
(10:00)0.68m (12:00)0.79m (14:00)1.33m

【参加者コメント】

- ・ ツバメが巣立ったのか、鳴きながら飛び交っていました。河川敷のヨシ原にねぐらを作るので、広いとは言えないものの、江戸川のヨシもひと役果たしているのだろうかと思いました。  
調査数日前の雹の影響か、まだ青いクルマミが、たくさん落ちていました。現場の日じゃなくてよかった！（KI）
- ・ 臭いと思ったらやはりハクレンの死骸が複数あり、昨年よりは少ないものの困ったものだ。メダカが先月に続き1匹も確認できなかった。スミウキゴリが増えたことと関係があるのだろうか。  
2015年に初めて確認して以降2例目となる「ヒナハゼ」が採れた。やはり小さい。（SI）

【今後の調査日】 7月30日(土) 8月13日(土)

HP ( <http://shigenori1.jimdo.com/> ) 新八水路「自主生物調査団」【編集：一澤成典】

葛飾柴又新八水路 魚からの便り-300

調査回数	調査日	地点	302			備 考
			2022/7/30			
			本流	新八水路	新八ワンド	
1	ア シ シ ロ ハ ゼ	18 26-55				
2	ウ キ ゴ リ		1 51			
3	オ イ カ ワ	9 24-104				
4	オ オ ク チ バ ス	2 96-235			特定外来生物	
5	カ ダ ヤ シ		7 28-34		特定外来生物	
6	ギ ン ブ ナ		9 22-43			
7	ク ロ ダ イ	1 460			初採取	
8	ゲ ン ゴ ロ ウ ブ ナ	2 55-378	1 36			
9	コ イ	1 64	2 33-56	3 14-16		
10	コ ク チ バ ス	4 45-240			特定外来生物	
11	ゴ ク ラ ク ハ ゼ	3 50-75				
12	ス ゴ モ ロ コ	2 70-86				
13	ス ズ キ	4 122-156				
14	ス ミ ウ キ ゴ リ		6 42-50			
15	ツ チ フ キ	11 57-78				
16	デ メ モ ロ コ	5 69-80				
17	ニ ゴ イ	21 37-178				
18	ヌ マ チ チ ブ	31 23-67				
19	フ ナ ssp			3 13-18		
20	ボ ラ	36 65-368				
21	マ ハ ゼ	98 53-103				
22	モ ツ ゴ	1 72				
計		17種類249個体	6種類26個体	2種類6個体		

- ・上段の数字は個体数、下段の数字は全長の最小-最大範囲（単位：mm）
- ・江戸川本流、新八水路、新八ワンドあわせて22種類281個体の魚類が採集されました。
- ・晴れ、気温34.1℃、水温 本流31.0℃、新八水路28.5℃、新八ワンド30.3℃（14:45頃測）  
「参考」江戸川の水位（観測所：千葉縣市川市市川 市川根本排水機場江戸川側）  
（10:00）1.13m（12:00）0.76m（14:00）0.52m

【参加者コメント】

- ・急激に水位が下がっていき、江戸川には急流になっていた状況で、魚の動きを予測できたひとは荒稼ぎしていたようです。（KI）
- ・河口堰を開けたおかげで水位も下がり参加された親子の方々も安心して魚類調査ができました。まさかのクロダイがとれると言う驚きのハプニングもあり、暑かったけれど楽しい調査となりました。（TI）
- ・暑い暑い1日でした。それにしてもメダカとタイリクバラタナゴが3ヶ月間も採れていないのが気になる。（SI）

【今後の調査日】8月13日（土） 9月23日（金・祝） 10月9日（日） 11月5日（土） 12月10日（土）

HP（<http://shigenori1.jimdo.com/>）新八水路「自主生物調査団」【編集：一澤成典】

## 葛飾柴又新八水路 魚からの便り-301

調査回数 調査日 地点	303			備 考	
	2022/8/20				
	本流	新八水路	新八ワンド		
1	ア シ シ ロ ハ ゼ	3 37-64			
2	オ イ カ ワ	13 23-105		1 27	
3	オ オ ク チ バ ス	1 136			特定外来生物
4	カ ダ ヤ シ		7 21-35	6 12-34	特定外来生物
5	ギ ン ブ ナ		1 25		
6	コ イ	1 100			
7	コ ク チ バ ス	8 64-341			特定外来生物
8	ゴ ク ラ ク ハ ゼ	4 55-63			
9	ス ズ キ	1 154			
10	ス ミ ウ キ ゴ リ		3 33-52		
11	ツ チ フ キ	6 65-83			
12	ド ジ ヨ ウ		1 33		
13	ニ ゴ イ	13 75-305			
14	ヌ マ チ チ ブ	9 21-63			
15	ハ ス	2 54-64			
16	ボ ラ	7 75-128			
17	マ ハ ゼ	27 56-107			
18	マ ル タ	3 28-80			
19	メ ダ カ			1 28	
計		14種類98個体	4種類12個体	3種類8個体	

- ・ 上段の数字は個体数、下段の数字は全長の最小-最大範囲（単位：mm）
- ・ 江戸川本流、新八水路、新八ワンドあわせて19種類118体の魚類が採集されました。
- ・ 曇り一時雨、気温30.4℃、水温 本流26.6℃、新八水路25.7℃、新八ワンド27.7℃（14:15頃測定）

「参考」江戸川の水位（観測所：千葉県市川市市川 市川根本排水機場江戸川側）  
 (10:00)1.85m (12:00)1.86m (14:00)1.61m

## 【参加者コメント】

- ・ 朝、日が出ているうちは、ボラが群れをなして水面から口をのぞかせて泳いでいて、見るまいとしても気を取られてしまいました。水位が高くて採れやしないのに。本流に出入りする部分の、湿った土が露出した所で、狩バチらしい、胴のくびれたのが、土を集めていました。巣になるのか。（KI）
- ・ 小さなハゼは現場ではビリンゴとされたが、写真による確認作業の結果、以下の理由でアシシロハゼと同定しました。①第1背鰭がビリンゴはほぼ透明なのに対し採れた個体には鮮やかな特有の模様があった。②口がやや上を向くビリンゴに対し現物は前向き。③腹鰭がビリンゴが丸く透明なのに現物は長く（楕円形）黒かった。（YK）
- ・ 1個体だけだけど、4ヶ月ぶりにメダカ確認。（SI）

【今後の調査日】 9月23日(金・祝) 10月9日(日) 11月5日(土) 12月10日(土)

HP ( <http://shigenori1.jimdo.com/> ) 新八水路「自主生物調査団」【編集：一澤成典】



## 環境課からのお知らせ

自然環境係 電話03-5654-8237 (直通)

# 自然環境レポーター研修会を開催しました

令和4年6月25日(土)、「初夏に見られる植物たち」をテーマに、水元公園の水辺の生きもの館周辺で自然観察会を開催しました。

研修会前半は屋外で実際に花や草木といった植物を観察し、後半は講習室で前半に観察した植物などについて解説を聞き、和やかな研修会となりました。

晴天の真夏日となりましたが、ご参加いただいた皆さまありがとうございます。

今後も研修会を開催していく予定です。レポーター同士の交流やレベルアップのためにも、皆さまのご参加をお待ちしております。

## グッドかわせみ賞受賞者 17名をご紹介します！

グッドかわせみ賞は、年に7回以上レポーター活動に励んだ方に授与されます。受賞された皆さまには、賞状と記念品を委嘱式時にお渡しました。委嘱式を欠席された方には郵送しております。

石鍋壽一さん、瑛ちゃんさん、江戸川の小鮒さん、M・Tさん、T・Kさん、K・Nさん、佐々木定治さん、散歩の花子さん、高橋雅子さん、田村ひろ子さん、千葉美文さん、となりさん、Ryuさん、Rさん、ゆきひめさん、藤並剛さん、弥生さくら草さん

今年度もグッドかわせみ賞を目指しましょう♪



★新八水路で魚類調査を行います★

日時 10月9日(日) 11月5日(土) 12月10日(土)  
午前10時～午後4時ごろ

場所 江戸川河川敷 ※事前にご連絡をお願いします。

持ち物 着替え、昼食、飲み物、首に巻くタオル、短くないソックス  
詳しくは、HP (<http://shigenoril.jimdo.com/>)

★綾瀬川や曳舟川親水公園等で行う魚類などの調査を見学しませんか★

採取した生物を展示して、調査結果の概要を説明します。

直接会場へお越しください。

日時 10月11日(火) 9時00分～ ※雨天時は10月26日(水)  
調査結果の説明 11時30分～(30分程度)

場所 綾瀬川(東四つ木避難橋付近)

日時 11月9日(水) 13時30分～ ※雨天時は11月21日(月)  
調査結果の説明 15時30分～(30分程度)

場所 古墨田川(小菅4丁目先)

《お詫びと訂正》

「水辺のふるさとかつしか」夏号(第321号)のP. 22に誤りがありました。

・上段の左側の写真

「明らかに小さスミレ」 ヒメスミレ 3/20 区北西部 名前:石鍋壽一  
→モンシロチョウ 3/7 水元2丁目 名前:佐々木定治

・上段の右側の写真

モンシロチョウ 3/7 水元2丁目 名前:佐々木定治  
→「明らかに小さいスミレ」 ヒメスミレ 3/20 区北西部 名前:石鍋壽一

ここに深くお詫びし、訂正させていただきます。

※ホームページは差し替え済みです。

～秋号でご協力いただいたみなさま～

Rさん、有泉桂子さん、石鍋壽一さん、瑛ちゃん、  
江戸川の小鮒さん、K・Nさん、慶蔵さん、K・Tさん、  
佐々木定治さん、散歩の花子さん、下山田隆さん、  
田村ひろ子さん、千葉美文さん、となりさん、  
広瀬温さん、藤並剛さん、弥生さくら草さん、ゆきひめさん、  
Ryuさん、自主生物調査団(編集:一澤成典さん)

ご協力ありがとうございました☆彡

「水辺のふるさとかつしか」第322号  
(葛飾区 自然環境レポーター通信第274号)

令和4年9月30日 発行

葛飾区環境部環境課自然環境係

〒124-8555 葛飾区立石5-13-1

Tel.(3695)1111 内線3522~3

直通電話 (5654)8237

fax (5698)1538



◆「水辺のふるさとかつしか」の内容について、お間違い等お気づきの点がありましたらお知らせください。